

令和 7 年度事業報告

(令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人映像産業振興機構

内容

1. 事業の経過	4
2. 主な事業の実施状況	4
(1) 人材育成事業	4
① 短編映画製作等を通じた若手映画作家人材育成 (ndjc2025)	4
② 映画スタッフ育成事業	5
③ 映画・映像人材育成事業	6
④ クリエイター等育成プログラム「滞在型企画開発」(Film Frontier)	7
⑤ コンテンツ分野における産学官連携による教育機関の機能強化支援 (委託型) ..	8
⑥ コンテンツ創造・海外展開のための実践的な社会人育成支援 (補助型)	9
⑦ 「放送コンテンツの海外展開に向けた人材育成に係る調査研究の請負」における 国内・海外研修プログラム (国内・韓国)	10
(2) 内外の市場整備事業	10
① 令和6年度補正予算 クリエイター・事業者支援事業費補助金(クリエイター・事 業者海外展開促進)(JLOX+)	10
② 令和7年度補正予算 コンテンツ産業成長投資支援事業(海外展開支援・開発プラ ットフォーム構築支援)(IP360)	18
③ アーカイブ中核拠点形成モデル事業	19
④ 全国ロケーションデータベースの利用促進のための調査	19
⑤ 令和7年度 舞台芸術等総合支援事業 (全国キャラバン)	20
⑥ 活字文化のグローバル展開推進事業	20
⑦ クリエイター事業者支援事業費補助金 (文化芸術活動基盤強化基金造成費) 事業 (令和7・8年度)	21
⑧ 令和7年度国際文化交流・協力推進事業 T I C A D 9 関連イベントに係る調査及 び企画運営実施業務	22
(3) 自主事業	22
① VIPO アカデミー	22
② セミナー・ワークショップ事業	23
③ AFI Conservatory 日本人留学生推薦事業	25

④	Japan Book Bank 事業（略称：JBB）	25
⑤	VIP0 Film Lab 事業.....	26
⑥	カンヌ 監督週間 in Tokio 2025	28
⑦	VIP0 Film Award	29
⑧	海外マッチング：ポーランド、コロンビア（万博関係）	29
⑨	交流促進事業.....	30
(4)	組織運営	31
①	会員の状況	31
②	通常総会、理事会、幹事理事会	31
(5)	広報活動	32
①	「VIP0 年間活動報告書 2024」の発行	32
②	「国際文芸フォーラム 2026」のプレス対応	32
③	「ndjc2025 合評上映会」のプレス対応	32
④	ホームページの運営	32
⑤	VIP0 会員とコンテンツ事業者へのメール配信	33
⑥	事業活動の記事露出	33

1. 事業の経過

令和7年度の通常総会（6月26日開催）でご承認いただきました、本年度の事業計画書、会計収支予算書に基づき、人材育成事業、内外の市場開拓等に関する事業を実施致しました。各事業の状況につきましては、次の通りであります。

2. 主な事業の実施状況

（1）人材育成事業

- ① 短編映画製作等を通じた若手映画作家人材育成（ndjc2025） 文化庁事業として20年目、35歳までの年齢制限を設けて7年目となる本年度は、36団体より69名（2024年度：36団体より63名）の推薦をいただきました。一次選考にて選出された15名がワークショップに参加し、最終選考の結果、4名の作家が製作実地研修に進みました。脚本開発、演出講義等を経てプロのスタッフ・キャストと共に短編映画制作に取り組み、3月24日に開催された合評上映会にて完成作品を披露しました。

《製作実地研修参加作家／完成作品タイトル》

鴨林諄宜／『巡り巡る果て』

辻井俊／『36万リットルのオーバーフロー』

中田江玲／『繰り返す女』

八代夏歌／『うねうねとまっすぐ』

4年目となる「長編映画の企画・脚本開発サポート」では、17名の応募者の中から一次選考で選出された12名を対象に、小泉徳宏監督・巢立恭平プロデューサーによる講義を実施し、商業映画監督として目指すべきことや、企画書について考える場を提供しました。講義を踏まえてブラッシュアップされた企画書・脚本と面接を踏まえた最終選考を経て2名の作家が選出されました。2名は講師による指導のもと脚本開発・パイロット映像の制作を行い、映画製作者に向けたプレゼンテーションに取り組みました。

《選出作家／初稿タイトル》

田中亮丞／『ジュニアハイスクールウォーズ』

中山剛平／『栄美の瞳に恋してる』

また、VIP0自主事業も交えながら、フォローアップとして本事業にて完成した短編全89作品に対して国内外の映画祭や劇場上映の機会を提供しております。Netflixによるndjc作品の配信も継続中です。本事業出身監督93名（短編：89名／長編：6名、2名重複）のうち43名が商業長編映画監督デビューを果たしており（未公開作品含む）、なかでもndjc2021団塚唯我監督『見はらし世代』はカンヌ国際映画祭「監督週間」に史上最年少で正式出品され、ndjc2022「長編映画の企画・脚本開発サポート」にて開発を行った坂本悠花里監督『白の花実』は長編映画化を果たし、サン・セバスティアン国

際映画祭新人監督部門のクロージング作品に選出されました。さらに ndjc2020 志萱大輔監督の商業長編デビュー作『猫を放つ』が釜山国際映画祭 コンペティション部門に選出される等、初長編作品が海外映画祭で評価される監督が続出しております。

《2025 年度以降 ndjc 出身監督 商業長編映画監督作品》

山元環 (ndjc2018)

『この夏の星を見る』(2025/7/4(金)公開) ※商業長編デビュー作品

吉野耕平 (ndjc2014)

『沈黙の艦隊 北極海大海戦』(2025/9/26(金)公開)

団塚唯我(ndjc2021)

『見はらし世代』(2025/10/10(金)公開) ※商業長編デビュー作品

中野量太 (ndjc2008)

『兄を持ち運べるサイズに』(2025/11/28(金)公開)

坂本悠花里 (ndjc2022 長編) ※商業長編デビュー作品

『白の花果』(2025/12/26(金)公開)

志萱大輔(ndjc2020) ※商業長編デビュー作品

『猫を放つ』(2026/5/2(土)公開)

吉野耕平 (ndjc2014)

『君のクイズ』(2026/5/15(金)公開)

岨手由貴子 (ndjc2009)

『すべて真夜中の恋人たち』(2026 年公開予定)

中野量太 (ndjc2008)

『私はあなたを知らない、』 (2026 年晩夏公開予定)

② 映画スタッフ育成事業

文化庁

将来の映画スタッフを育成するため、映画制作現場での職業体験を希望する学生をインターンとして、実際のプロの商業映画の現場に受け入れて実習を行う人材育成事業を平成 30 年度より受託、毎年改善を重ねています。2024 年 3 月に第 96 回米国アカデミー賞 視覚効果賞を受賞した『ゴジラ-1.0』は令和 3(2021)年度実習作品でした。

【実習実績】2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

実習成立 16 作品(12 社) 学生 45 名 / 作品応募 29 作品 学生応募 119 名

【過去 3 年実績】

2022: 15 作品(15 社) 50 名

2023: 19 作品(16 社) 46 名

2024: 16 作品(14 社) 40 名

【2025 年 4 月～2026 年以降公開(予定)の実習作品】 ※タイトル情報解禁済作品

2025 年 4 月～

『ぶぶ漬けどうどす』 富永昌敬監督

『でっちあげ 殺人教師と呼ばれた男』 三池崇史監督

『ババンババンバンバンパイア』 浜崎慎治監督

『遠い山なみの光』 石川 慶監督

『カラダ探し THE LAST NIGHT』 羽住英一郎監督

『種まく旅人 醗(もろみ)のささやき』 篠原哲雄 監督

『旅と日々』 三宅 唱監督 / 『君の顔では泣けない』 坂下雄一郎監督

2026 年

『恋愛裁判』 深田晃司監督 / 『ほどなく、お別れです』 三木孝浩監督

『君が最後に遺した歌』 三木孝浩 / 『繰り返す女』 ndjc2025 中田江玲監督

『君のクイズ』 吉野耕平監督 / 『黒牢城』 黒沢 清監督

『キングダム続編』 佐藤信介監督 / 『ゴジラ-0.0』 山崎 貴監督

『mentor』 吉田恵輔監督 / 『汝、星のごとく』 藤井道人監督

『Last Dance～最後の遊戯～』 村川 透監督

『急に具合が悪くなる』 濱口竜介監督 / 『仏師』 田中綱一監督

【セミナー】

第一線で活躍する映画人を講師に迎え、全国の映画・映像を学ぶ学生を対象にしたオンラインセミナーを 2 回、また、ndjc と連携したセミナーも 2 回実施しました。

① 制作部の仕事 2026 年 2 月 3 日 講師：牧野内知行氏

② “美打ち”について 2026 年 3 月 9 日 講師：片平大輔プロデューサー
(美術)花谷秀文氏 (VFX)鎌田康介氏

ndjc 連携① 2025 年 9 月 30 日 商業映画を学ぼう

講師：横山蘭平プロデューサー・西ヶ谷寿一プロデューサー

ndjc 連携② 2026 年 3 月 30 日

ndjc2024『あわいの魔物たち』を用いた映画制作セミナー

講師：守田悠人監督・平田陽亮氏プロデューサー

③ 映画・映像人材育成事業

京都府

京都府から、引き続き『京都映画企画市』を受託しました。

本年度の映画企画の応募数は 29 企画となり、過去企画市の優秀映画企画者やファイナリストはじめ ndjc 経験者からの応募もあり、5 企画がファイナリ

ストに選出、企画内容レベルは年々上がってきています。

審査員は、前年に引き続き、犬童一心監督、映画.com の和田 隆プロデューサーに加え、時代劇製作経験があり一昨年の審査員だった松竹の矢島 孝プロデューサーを迎えました。

コンテストの3週間前には、企画応募者のスキルアップのため企画相談会を開催、相談員プロデューサーにはオフィス・シロウズ久保田 傑プロデューサー、RIKI プロジェクト永井拓郎プロデューサーを迎えました。

10月4日に京都にて開催した企画コンテスト(公開プレゼンテーション)により、優秀映画企画は『語り葉帖』緑茶麻悠氏・佐伯龍蔵氏(監督・脚本)に決定しました。コンテスト冒頭には京都府 西脇隆俊知事から、本企画市は国内外が注目する作品が京都から生まれるきっかけとなっているとの開会挨拶がありました。パイロット版映像は、10月中旬から脚本執筆、2026年2月上旬に東映京都撮影所の協力により撮影、3月中旬に完成しました。

2024年パイロット版『引かれ者の小唄』(栗本慎介監督/脚本: 島村 隆氏)は、11月に開催される山形国際ムービーフェスティバルにて応募総数282作品からノミネートされ日本テクトホールディングス賞を受賞しました。

企画市パイロット版(2016年度)から初長編化作品の蔦 哲一朗監督『黒の牛』(キャスト: リー・カンション、田中泯、音楽: 故・坂本龍一)は、2024年の東京国際映画祭でプレミア上映され、第49回香港国際映画祭ヤングシネマコンペティション部門最高賞「〈火鳥大賞〉Firebird Award」受賞(日本映画史上初)、第26回全州国際映画祭「NETPAC 賞」受賞と栄冠に輝きました。台湾公開に続き、2026年1月23日に日本公開となりました。

④ クリエイター等育成プログラム「滞在型企画開発」(Film Frontier)

独立行政法人日本芸術文化振興会 文化芸術活動基盤強化基金事業、ユニジャパンより受託

次代を担う若手クリエイター等の人材育成を目的に、海外展開に向けた指導・助言、海外フェスティバル等への派遣や出品、現地関係先とのネットワーク形成の促進、サポート等を行います。

「滞在型企画開発」:

海外でのレジデンスをはじめ、企画・脚本開発の実践を通じたトレーニング等を受けるプログラム(窓口: VIP0)

●事業実施計画と内容

令和6年度（1年目）：

プログラム全体内容の確定、海外協力機関の選定、伴走アドバイザーの決定、参加者の公募～選考～確定～発表、成果発表会実施、報告書作成

令和7年度（2年目）：

滞在プログラム準備、事前トレーニングの実施、滞在プログラムの実施、フォローアップ、海外ラボへのエントリー・参加支援、フォローアップ講義の実施、報告書作成

令和8年度（3年目）：

海外映画祭や企画マーケット・ラボへの参加等、成果発表会実施、報告書作成

プログラム参加者数：4名（飯塚陽美監督、佐久間啓輔監督、早川千絵監督、山下つぼみ監督）

伴走アドバイザー：4名（小西啓介プロデューサー、水野詠子プロデューサー、柳本千晶プロデューサー、渡邊一孝プロデューサー）

■令和7年度実施報告

レジデンスプログラムの準備として事前講義（全4回）を実施した後、各監督を韓国、フランス、アメリカへ派遣し、レジデンスプログラムを実施しました。帰国後には、海外ラボへのエントリーおよび参加に向けた支援を行ったほか、フォローアップ講義も実施しました。さらに、アドバイザーとの定期面談を通じて、継続的な支援を行いました。

【新規受託事業】

- ⑤ コンテンツ分野における産学官連携による教育機関の機能強化支援（委託型）

独立行政法人日本芸術文化振興会

「文化芸術活動基盤強化基金（Japan Creator Support Fund）」の一環として展開する「クリエイター等支援事業」では、大学・専門学校等の教育機関と企業・関係団体等の業界が連携し、国際的な実践を通じて社会人として必要なスキルを習得する育成プログラムを構築します。映画制作および映画教育分野の第一線で活躍する富山省吾氏、諏訪敦彦氏をアドバイザーに迎え、実効性の高い事業運営を進めています。

I. 基礎調査・ヒアリング（25年4月～）

基礎調査として定量調査を実施し、学生数から卒業生の進路など実態を把

握。定性調査として、教育機関側の需要掘り起こしのためのヒアリング調査を実施。全国映画教育協議会加盟校＋専門学校の数校を対象とする。また職能団体や関連団体へのヒアリングや海外教育機関にもヒアリング等を実施し、プログラムの開発及び改善につなげる。

II. 海外教育機関体験プログラム（26 年 2、3 月パイロットプログラム実施、26 年と 27 年 8、9 月実施）

まずは 1 年目にパイロットプログラムを 2 週間程度実施。翌年以降のプログラムのベースとなるもの。

海外フィルムスクール等を訪問、体験。海外との将来的協業への興味喚起、日本との違い等を意識する。

対象：まだ専攻科目実習等の少ない 1、2 年生

III. アドバンス・プログラム（26 年、27 年実施）

パイロットプログラム参加者、および学校推薦等、優秀な学生選抜によるアドバンスコース

IV. 継続調査（2026 年～2027 年）

1 年目に実施する調査に追加で継続調査を行う。

国内各大学からのヒアリング内容に加え、海外フィルムスクールの調査などを通し、今後の改善策等をリサーチしまとめる。

今年度は、国内の主要な映像系教育機関（対象 71 校中 51 校回答）へのアンケート調査と、中核 15 校へのヒアリングを実施しました（I）。また、海外教育機関体験プログラム（II）のパイロット版として、オーストラリア・グリフィスフィルムスクールにおける、日本人学生 10 名のワークショップを実施しました。映画制作のプロセス全体を通して学ぶワークショップでは、実際に撮影から編集や仕上げまでを 2 週間で実施、現地の教員や学生も招いてのスクリーニングを実施しました。

次年度以降は上記調査およびパイロット版プログラムで掘り起こした現場の課題とニーズを踏まえ、実践的な「海外連携プログラム」や選抜学生向けの「アドバンス育成プログラム」の策定・実装へとつなげていきます。

- ⑥ コンテンツ創造・海外展開のための実践的な社会人育成支援（補助型）独立行政法人日本芸術文化振興会 文化芸術活動基盤強化基金事業
日本映画制作適正化機構(映適)と連携し、作品認定申請のあった映画のスタッフリスト等を DB 化し、映画産業の職種別スタッフ数等を計測。同分析結果と関係者ヒアリングを下記 I、II に反映し各プログラムを実施。

- I. 国内外で実績のある監督、脚本家、プロデューサーを対象に、複数の国際映画機関等と連携し、研修・ワークショップ・脚本指導等を実施。国際水準でのスキルアップを行い、国際企画マーケット参加を目指す。また日本映画の海外での需要調査を行い、参加クリエイター作品の上映会等露出機会を創出。
- II. 育成ニーズの高い職種、スキルを優先的に研修等を実施し、映画技術スタッフのレベルを国際水準まで引き上げ、日本映画の海外展開、海外プロダクションの日本ロケや国際共同製作を支える技術スタッフを育成する。

本年度は、映画・映像分野人材の可視化を目指し、現役映画スタッフの規模等に関する調査を実施するとともに、データベース構築および分析に向けた下準備を推進しました。次年度の実施に向けた実践的な育成施策として、海外でのワークショップや脚本アドバイスプログラム等を企画立案しました。現在、これらの海外連携・育成事業の本格稼働に向け、公募～選定、公募準備等を含めた各種調整を着実に進めています。また、制作部やロケーション担当者向けのリスキリングプログラムを3日間実施しました。

⑦ 「放送コンテンツの海外展開に向けた人材育成に係る調査研究の請負」における国内・海外研修プログラム（国内・韓国）

総務省事業（三菱総合研究所より受託）

国内の放送事業者、番組製作会社等を対象に、世界水準の高品質な実写コンテンツの製作および海外展開に必要なノウハウやスキル等の取得・向上を目指す機会を提供すること等を通じ、海外展開を前提とした放送コンテンツの製作に携わる人材の育成を図ることを目的に、国内研修（6日間8講義の座学）、及び、韓国派遣研修（2泊3日の実地研修）を行いました。国内研修は、会場参加、オンライン参加に加えて、アーカイブ視聴参加者も採択し、リアルタイムで66名、アーカイブで42名が受講しました。韓国派遣研修では、多数の希望者の中から10名（キー局2名、その他放送局3名、番組製作会社5名）を採択し、ソウルでの研修を実施。6社の韓国製作会社を訪問し研修したほか、20社以上の主要な企業を招待したネットワーキングイベントを実施。またソウル郊外の国内最大規模の大型スタジオを視察しました。

(2) 内外の市場整備事業

- ① 令和6年度補正予算 クリエイター・事業者支援事業費補助金(クリエイター・事業者海外展開促進)(JL0X+)

経済産業省 56.5 億円

【補助金事業】

「令和 6 年度補正予算 クリエイター・事業者支援事業費補助金(クリエイター・事業者海外展開促進)」の事務局を令和 7 年 2 月に受託しました。

・海外向けのローカライゼーション&プロモーション支援を行う事業

(「ジャパンパビリオンに関連するものを除く」「ジャパンパビリオンに関連するもの」)

コンテンツが主体となった海外展開を行う際のローカライズ及びプロモーションを行う事業者に対して、補助金を交付することにより、日本発のコンテンツ等の海外展開を促進し、「日本ブームの創出」を通じた「関連産業の海外展開の拡大」及び「訪日外国人等の促進」につなげることを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 8 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

・国内映像制作を行う事業（プロダクション・ポストプロダクション支援）

グローバル市場を目指した映像、ゲーム製作には制作会社による IP マネージメントや収益確保が重要であり、本補助金は、制作会社が資金調達や IP 活用等に主導・参画し、海外市場に訴求する高品質なコンテンツ（映像、ゲーム等）を制作する取組を支援することで、コンテンツの国際競争力や収益基盤の強化を促進することを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 8 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

・国内映像企画開発を行う事業（プリプロダクション支援）

グローバル市場におけるコンテンツ投資が拡大しているところ、本補助金は、海外需要獲得を目指す事業者が海外展開を念頭においた高品質なコンテンツ（映像、ゲーム等）の本制作に向け、多様な資金調達やパートナー獲得、クオリティの高い企画・脚本等の開発、契約交渉・資金調達における権利処理を行う取組を支援することで、コンテンツの国際競争力や収益基盤の強化を促進することを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 8 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

・海外制作会社による国内ロケ誘致等に係る支援

海外映像制作者等による日本国内でのロケ撮影に係る制作費を支援することで、ロケを誘致し、日本国内の人材活用や地域との協力を通じて、映像産業

や地域の振興、インバウンドの増加等を促すことを目的とし、日本国内でのロケ撮影に付随して、ポストプロダクションにおける VFX 等の高度な編集作業を日本国内で行う事業も積極的に誘致することで、日本国内人材のさらなる活用を促し、映像産業の一層の発展を目指しており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 8 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

・デジタル技術を用いた先進ビジネスモデル構築支援

web3.0（ブロックチェーン技術等）、仮想空間、AI（生成系 AI を含む）をはじめとしたデジタル技術の活用等によって、我が国発の IP を活用したビジネスモデルの高度化、新たなコンテンツ体験価値の提供を図る取組を支援することにより、エンタメ・クリエイティブ産業における新たなマネタイズ手法を構築し、産業全体の成長に寄与する先進的なビジネスモデルを生み出すことを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 8 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

・コンテンツ製作・流通における生産性向上/構造改革・強化に資するシステム開発支援

エンタメ・クリエイティブ産業界における DX 化等による生産性向上や流通構造の改革・強化の支援を行う事業であり、それらに資するシステムの開発・実証の取組を支援することにより、エンタメ・クリエイティブ産業が持続的に発展するエコシステムを構築し、ひいてはクリエイターをはじめとしたコンテンツ制作者の事業環境の健全化を促進することを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

確定検査は全て終了し、令和 8 年 3 月末までに全件の支払いが完了しました。

【伴走支援事業】

日本発コンテンツの海外市場における持続可能な収益モデルの構築に資するビジネスマッチングモデルの確立を目的とし、複数のコンテンツ分野(映画、アニメ、放送番組、音楽、出版、ゲーム、キャラクターより 5 分野以上)を対象にしたビジネスマッチング等を実施しました。

I. コンテンツ国際ビジネスマッチングの実施

1) 「ファーイースト映画祭」 FOCUS ASIA 2025 (イタリア・ウディネ)
Focus Asia 企画マーケット「ALL GENRES PROJECT MARKET」(4月28日～
5月1日)

ヨーロッパ最大のアジア映画に特化したファーイースト映画祭に併設されヨーロッパやアジアを中心に世界の業界関係者が集まる「FOCUS ASIA」の企画マーケット「ALL GENRES PROJECT MARKET」に日本から2企画が選出され、①『YELLOW』(参加者：大日向隼プロデューサー、山浦未陽監督)②『LEFT TURN』(参加者：佐藤菜穂美プロデューサー)を支援しました。また「Ties That Bind」脚本講師による1対1の脚本個別指導も実施し、上記2企画に加え『押しボタン症候群』(藤田可南子プロデューサー)を支援しました。

2) 北京国際映画祭企画ピッチ&マッチ(4月21日～24日、中国・北京)

北京国際映画祭期間中に実施した4日間の国際共同製作支援プログラム。アジア進出を検討する映画・映像・アニメ・ゲーム制作会社13社(TAMARIBA EXPERIENCE、トリクスタ、ショーマンズ、CHOTOTU、エヌフォース、東北新社、アネックスデジタルジャパン、OFFICE OKAZAKI、ADKエモーションズ、ポッピングゲームズジャパン、イマジカインフォス、テレビ朝日、ABCアニメーション)を選出し、国際共同製作を推進する政策をすすめている北京市を訪問。日中韓国際フォーラムに参加し、現地コンテンツ企業とのピッチ&マッチングを実施したほか、iQIYIやSina Weibo等現地の大手有力コンテンツ企業を個別訪問。人的ネットワーク強化を図りました。

3) カンヌ国際映画祭 Marche du Film スポットライトアジア(5月13日～21日、フランス・カンヌ)

「カンヌ Spotlight Asia」(5月15日～18日)

「カンヌ Producers Network」(5月14日～19日)

「カンヌにおける映画『ルノワール』ケーススタディイベントの実施」(5月18日)

「カンヌ国際映画祭併設マーケット Marche du Film」(5月13日～21日)
世界最大の映画祭併設マーケットであるカンヌ Marche du Film で実施される「Spotlight Asia」および「Producers Network」に3名のプロデューサー(竹中香子氏、柳本千晶氏、山田兼司氏)を派遣。「Spotlight Asia」で実施されたファンドセッションは世界20ヵ国21団体が一堂に会し、各国の国際共同支援制度を紹介する内容で参加者にとっては非常に貴重な機会となりました。また、新たな取組として出版IPの映画化を

目指す IP ピッチイベントも実施され、日本からは坂本達夫氏（コムスマ株式会社）と中山結衣氏（株式会社講談社）の2名が企画をピッチしました。並行してヨーロッパ、南米、アジア諸国のプロデューサーとのマッチングイベントも実施し、各プロデューサーが直接顔を合わせて企画を紹介できたことは、大変有意義な機会となりました。「Producers Network」では更に世界 50 カ国以上から約 400 名以上のプロデューサーが集いネットワーキングやミーティングを実施する機会が提供されました。また、早川千絵監督作品『Renoir（ルノワール）』がコンペティション部門に選出（日本女性監督としては史上 2 人目）されたことで実施されたケーススタディ及びネットワーキングイベントを支援しました。

4) アヌシー国際アニメーション映画祭併設マーケット MIFA ブース出展
& トーク／ピッチイベント（6 月 10 日～13 日、フランス・アヌシー）

フランス・アヌシーにて開催された「アヌシー国際アニメーション映画祭」の併設マーケット MIFA（Marché international du film d'animation）に出展し、日本発の「Indie Anime」の紹介企画として、公募から選出をした 15 作品映像をブース内で流し、パネルと合わせて展示すると同時に、WIP（Work in Progress）および企画段階のプロジェクトの国際共同製作を後押し、資金調達や海外セールスのためのパートナーとのマッチングを目指す商談のためのブースを設け、公募から選出をした 7 社が、数多くの商談を行いました。また、Indie Anime を牽引するクリエイター 2 人が登壇したトークイベントと WIP 商談ブース参加企業のうち 6 社によるピッチセッションを行いました。更に、MIFA におけるネットワーキング機会の最大化を実現するために「Japan Networking Party」をはじめ、「France-Japan Animation Networking Breakfast」、「台湾・フィリピンとのネットワーキングイベント」を実施しました。

5) プチョン国際ファンタスティック映画祭 併設企画マーケット「NAFF It Project」企画参加支援（7 月 4 日～8 日、韓国・プチョン）

アジア最大のジャンル映画祭であるプチョン国際ファンタスティック映画祭併設企画マーケット「NAFF It Project」に『WASH AWAY／洗浄』（宮原拓也監督、林 健太郎・下條友里プロデューサー）、『Lovely Ugly Your Friend／うるはしみにくし あなたのともだち』（安川有果監督、久保田恵・宮森翔子プロデューサー、小林達夫脚本）、『Love is a Monster／恋は怪獣』（早坂亮輔監督、山田幸広プロデューサー）の 3 企画が参加。事前にピッチトレーニングを受講した 3 企画の監督およびプロデューサーらが、各国から集まった業界関係者にオープンピッチを行い、『WASH

AWAY／洗浄』はAsian Discovery Awardを、『Lovely Ugly Your Friend／うるはしみにくし あなたのともだち』は、Mocha Chai Awardを受賞しました。また、3 企画とも国際共同製作や資金調達などを目的に今後の進展が期待できる個別ミーティングを数多く実施しました。

6) gamescom ジャパンパビリオン出展（8月20日～24日、ドイツ・ケルン）

gamescom2025のIndie Areaにジャパンパビリオンを出展しました。参加したのは、①株式会社サイバーコネクトツー「戦場のフーガ 3」②SAFE HAVN STUDIO「SAEKO: Giantess Dating Sim」③達成電器株式会社「G' AIM' E × タイムクライシス」④Ryo Kobuchi「SKY THE SCRAPER」⑤Wonderland Kazakiri inc.「CASSETTE BOY」⑥Game Float/Spiral Up Games「BANDIT KNIGHT」⑦HU CHI (UrbanFox)「DRIFTED ドリフテッド」⑧Nukenin株式会社「Jelly Troops」⑨イノナカゲームス「Out of Skull」⑩株式会社5次元「Wizlite」の10作品。現地において一般ユーザー向けの試遊だけではなく、海外パブリッシャー等との商談やピッチの実施や現地メディアの取材も行いました。今回のジャパンプース出展によって、Steamのウィッシュリスト登録数／販売本数やゲーム機売上の大幅な増加という成果を得られました。

7) 釜山国際映画祭併設マーケットACFM（9月20日～23日、韓国・釜山）

「APM推薦／ACFM企画ピッチ」

釜山国際映画祭併設マーケットACFMの企画マーケット「APM」への企画推薦、及び、ACFMブース出展での企画ピッチを実施しました。APMに推薦した企画は今年は選出されなかったものの、過去マッチング事業で支援したプロデューサーの企画が「ONE COOL AWARD」を受賞しました。ACFMブース出展では『青が破れる』（内山拓也監督、佐藤菜穂美・本間綾一郎プロデューサー）、『ガブ』（栗本慎介監督、筒井龍平プロデューサー）、『一蓮』（植木咲楽監督、吉野圭一プロデューサー）、『まどろむ土』（金子由里奈監督、谷高真寛プロデューサー）の4企画が参加。事前ピッチトレーニングを受講の上、ブース内で国際共同製作や資金調達のための個別ミーティングを行い、現在も商談を継続しています。

「Producer Hub：プロデューサー派遣」

Producer HubのInstitutional Partnerとなり、橋本匠子氏、宮森翔子氏、江本優作氏の3名のプロデューサーを派遣しました。アジアでの国際共同製作プログラムを目指し、スピードミーティング、ケーススタデ

イ、ワークショップ、セミナー等に参加しました。

「Doc Square：ドキュメンタリー監督・プロデューサー派遣」
今年新設されたプログラム Doc Square に監督とプロデューサーを派遣しました。山崎エマ監督、植山英美プロデューサー、竹中香子プロデューサーの 3 名がドキュメンタリーに関するトークセッションに登壇し、各国のドキュメンタリー制作者とネットワーキングを行いました。

7-2)「釜山ストーリーマーケット出展」

ACFM とパートナーシップを結び、Japan delegation として出展しました。講談社、KADOKAWA、徳間書店、実業之日本社、主婦の友社、NHK エンタープライズの 6 社が出展し、IP の映像化または映像のリメイクにむけた商談を行い、多数の商談が継続中です。

8) A-JAPAN : GENRE ビジネスマッチング (10 月 30 日～2 月 28 日、オンライン)

ハリウッドを中心とした北米での TV ドラマシリーズ化等、映像化を目指す日本 IP を紹介することを目的とした A-JAPAN の第 5 弾。過去最多の応募数の中から、幅広いジャンルがベースの 3 つの IP のピッチトレーラーやピッチデッキ等を制作し、北米のプロデューサーや脚本家に向けてセールスしすべての IP に映像化に向けた興味が示されました。参加 IP は、①「デトロイト・メタル・シティ」(プロテカ) ②「演じ屋」(WOWOW) ③「兄だったモノ」(コミスマ) の 3 IP。

9) 「世界標準の音楽ライセンス術 ～シンク・ビジネスセミナー第 3 弾：ライセンス戦略によって広がる新たな海外ビジネスチャンス～」(2 月 10 日、VPO)

米国で活躍する作曲家エージェントであり、音楽プロデューサー備耕庸氏によるシンクビジネスセミナーを、2020 年度、2022 年度に引き続き実施。グローバルライセンスの現状と、ライセンス契約だけに留まらず、映像作品へのシンク契約をきっかけに広がる楽曲のさまざまなビジネスチャンスについて、例を交えながら解説しました。

10) First Cut Lab Japan 2025 (12 月～1 月、オンライン)

実写長編映画の編集コンサルティングワークショップ「First Cut Lab Japan 2025」に選出された長編映画『Incinerator (焼却炉)』(内田俊太郎監督、長尾卓磨プロデューサー、高田聡プロデューサー) の参加を支援。2025 年 11 月 10 日～11 月 20 日にかけて編集コンサルタントおよび

インダストリーアドバイザー3 名による各セッションを実施。終了後はさらなる編集／完成に向けての指針となるワークショップのレポート／ロードマップが提供された。

11)「Rotterdam Lab2026: 若手プロデューサー参加支援（1月31日～2月5日、オランダ・ロッテルダム）

「ロッテルダム国際映画祭」の企画マーケット「CineMart」の一部として実施されている「Rotterdam Lab」に VIP0 推薦の若手プロデューサー2名＜土川はな（オー・エル・エム）、福田文香（チョコレート）＞を派遣しました。

12)Berlinale Co-Production Market Visitors Programme 参加支援（2月13日～16日、ドイツ・ベルリン）

ベルリン国際映画祭併設の国際共同製作マーケット Berlinale Co-Production Market の一部として実施されている「ビジターズプログラム」に VIP0 推薦のプロデューサー3名、岩瀬顕子（Bion Entertainment Inc.）、上浦侑奈（K2 Pictures）、佐藤圭一朗（Lat-Lon）を派遣しました。また、今年は新たに Spotlight On という企画のピッチセッションを実施。3名のプロデューサーが合計7企画を紹介し、80席の会場は満席となった。そして、昨年が続いて在ドイツ日本大使館主催の「Japan Night」にも参加。ドイツ国内外の映画関係者の前でピッチを行いました。

【伴走支援事業実施スケジュール】

No.	事業名	期間	実施場所	ジャンル
1	ウディネ 国際共同製作支援	4/28-4/30	イタリア	映画
2	北京国際映画祭 企画ピッチ&マッチ	4/21 ～ 4/24	中国	映画/アニメ
3	カンヌ スポットライトアジア（国際共同製作支援）	5/15～5/18	フランス	映画/アニメ/IP
3-2	カンヌ「ルノワール」（早川千絵監督）ケーススタディ	5/18	フランス	映画
4	アヌシーMIFA出展（WIP／インディーアニメ）	6/10 ～ 6/13	フランス	アニメーション
5	プチョン国際ファンタスティック映画祭 NAFF IT Project & FFS	7/3 ～ 7/13	韓国	映画
6	gamescom ジャパンパビリオン出展	8/20～8/24	ドイツ	ゲーム
7	釜山国際映画祭 APM (Asian Project Market) 企画ピッチ、Producer Hub	9/17-9/26	韓国	映画
7-2	釜山ストーリーマーケット（BSM） 出展&ピッチ	9/20-9/23	韓国	出版

No.	事業名	期間	実施場所	ジャンル
8	A-Japan ビジネスマッチング 第4弾	秋	アメリカ	IP映像化
9	シンクビジネス強化企画	10月頃	アメリカ	音楽
10	First Cut Lab Japan 2025	12月～1月	オンライン	映画
11	ロッテルダム国際映画祭 Rotterdam Lab 企画マーケット ピッチ	1月末～2月初旬	オランダ	映画
12	ベルリン国際映画祭 EFM 企画マーケット ビジネスマッチング	2月中旬	ドイツ	映画
13	コ・フェスタ	4/1～3/31	日本	コンテンツ全般

II. コ・フェスタの実施

「コ・フェスタ 2025 実行委員会」(7月10日、リアル開催)

コンテンツ業界団体、関係省庁、政府機関、関係自治体の代表及びコンテンツ関連イベント主催者の代表で組織をし、各イベントの内容紹介、今年度の事業内容について説明を行い、イベント間の連携と情報共有を図りました。

場所：野村カンファレンスプラザ日本橋 6F 大ホール

出席者総数：49 名

② 令和7年度補正予算 コンテンツ産業成長投資支援事業(海外展開支援・開発プラットフォーム構築支援)(IP360) 【新規受託事業】

経済産業省 29.8 億円

「令和7年度補正予算 コンテンツ産業成長投資支援事業(海外展開支援・開発プラットフォーム構築支援)」の事務局を令和8年3月に受託しました。

・海外展開支援 (IP・エコシステム世界展開支援)

海外向けコンテンツの供給量や外国ユーザーのファンを効果的に拡大するため、4者以上のコンテンツ IP の権利者が主体となって同業種又は異業種の複数の IP がまとまって海外展開する事業を支援します。

令和8年3月10日に第1回公募を開始しました。

・海外展開支援 (ローカライズ支援)

海外向けコンテンツの供給量や外国ユーザーのファンの拡大に向けて、コンテンツ IP の権利者が主体となって、個社で行うローカライズを支援します。

令和8年3月10日に第1回公募を開始しました。

・海外展開支援 (プロモーション支援)

外国ユーザーのファンの拡大に向けて、コンテンツ IP の権利者が主体となって、個社で行うプロモーションを支援します。
令和 8 年 3 月 10 日に第 1 回公募を開始しました。

・開発プラットフォーム構築支援

世界的な大ヒット作品を生み出すためには、高度な制作ツールが重要。特にコンテンツ産業への裨益が大きな、コンテンツの高品質化、革新的なコンテンツの製作、又はコンテンツ製作の生産性向上に資する AI や XR、ブロックチェーンといった高度な技術を活用した開発プラットフォームの構築を支援します。

令和 8 年 3 月 31 日に第 1 回公募を開始しました。

③ アーカイブ中核拠点形成モデル事業

国立映画アーカイブ

文化庁として 5 年、国立映画アーカイブに事業移管して 3 年目（合計 8 年目）となるアーカイブ中核拠点形成モデル事業を受託しました。

今年度の調査研究業務の対象地区は、関西（京都・滋賀）、関東（東京等）地区とし、前者では東映京都撮影所、井川徳道映画美術記念館、東近江市立湖東図書館（沢島文庫）、後者では劇団前進座、日本大学芸術学部の映画資料調査を実施しました。

2026/1/23(金)に「全国映画資料アーカイブサミット 2026」をオンラインで開催し、220 名が視聴参加しました。

映画資料調査の実証展示として、2026/2/6(金)-3/1(日)に調布市文化会館たづくり北ギャラリーで、映画資料展「天下御免！東映京都撮影所物語／劇団前進座の映画史」を開催し、4689 名の方が来場しました。

デジタルアーカイブ実証研究では、世田谷文学館所蔵の成瀬巳喜男監督の自筆資料 3 点と同監督作品の台本（監督・スタッフの書き込みあり）34 点、川喜多記念映画文化財団所蔵の戦前の映画作品『新しき土』（1937 年）の宣伝スクラップブック 18 点をデジタル化して館内利用できるようにしました。

本年度は、2020 年度事業で調査・編集・発行した全国の映画資料所蔵施設の情報を掲載した「全国映画資料館録」を 5 年ぶりに発行しました。情報収集を行い、掲載館数を同 2020 版の 68 館から 123 館に増やしました。

④ 全国ロケーションデータベースの利用促進のための調査

国立映画アーカイブ

国立映画アーカイブが事業主管に変更となり 3 年目の事業となります。

事業運営事務局としてジャパン・フィルムコミッション(JFC)とコンソーシアムを組み、双方のネットワークを活かした運営を実施しております。

今年度の大きな活動としては、全国ロケーションデータベース（JL-DB）の

ウェブサイトサーバーのOSアップグレード作業を完了し、また、データベースの利便性向上を目指して利用者側の映像制作部やラインプロデューサーら10名へのヒアリングを実施しました。そのヒアリング結果をふまえ、主にJL-DBの検索がよりわかりやすくスムーズに行えるように、検索項目の改善と画面デザイン変更を実施しました。

昨年に引き続き、ロケ地情報の登録と更新促進に力点を置き、JFCと共同で実施している全国ロケ地フェア等の複数のイベントで、JL-DBの登録者たる全国のフィルムコミッションにヒアリングと登録・更新への啓蒙を実施しました。

2026年3月時点のロケ地データの総登録数は、(日本語12,911 英語4,961 中国語1,159)となっております。

その他の活動として、11月～2月JFCブロック研修(10ヶ所)、12月、2月のロケエキスパートイベント(2ヶ所)、1月の海外制作者セミナーの開催においてJFCをサポート。8月、1月の全国ロケ地フェアでは出展し映像制作者へのJL-DBの直接アピールを敢行。

これらの活動を通じて日本の映像制作環境向上の支援に努めました。

⑤ 令和7年度 舞台芸術等総合支援事業(全国キャラバン)

独立行政法人日本芸術文化振興会(助成金含む事業総額:5.4億円)

本事業は、全国における大規模で質の高い公演等の実施や配信を支援することを通じて、国内における文化的な地域格差を解消するとともに、統括団体による活動拠点の形成を促進することを目的として、文化芸術統括団体による有料公演に対する助成を行う事業です。

日本芸術文化振興会との連絡調整を行いながら、事務局として適切に事業運営を行いました。

昨年度末に実施した助成事業者の募集に対して15件の応募がありましたが、その中から3月31日に9団体を採択し、7月16日までに9団体全てに交付決定を行いました。

1年を通じて、ほぼ想定通りの進捗で運営を行った結果、提出期日である2月13日までに全団体から実績報告書を回収し、年度内に全団体に額の確定通知を発送することが出来ました。

⑥ 活字文化のグローバル展開推進事業

文化庁

文化庁から当該事業を受託し、その中でいくつかの事業を実施しています。助成金事業に関しては、数多くの応募の中から企画書の翻訳・作成:106作品、サンプルの翻訳:29作品を採択しました。なお、採択事業者数は38社でした。すでにいくつかの採択作品の海外翻訳出版が締結されています。

第10回文化庁翻訳コンクールに関しては、現代文学部門(英語)／現代文

学部門（スペイン語）／古典文学部門（英語）において、それぞれ受賞者が決定しました。2月12日に「国際文芸フォーラム2026」と題した表彰式と記念シンポジウムを開催しました。過去最大規模での開催となり、日本文学に携わる方々や翻訳者、出版関係者など約400名の方にご来場いただきました。

フランクフルト・ブックフェア2025においては、日本書籍の海外展開を支援することを目的とした、ドイツ等の出版社との商談会を実施しました。また、出版社向け海外展開セミナーや、フランスとスペインの図書館における日本マンガの状況についてのセミナーも実施しました。

【新規受託事業】

- ⑦ クリエイター事業者支援事業費補助金（文化芸術活動基盤強化基金造成費）事業(令和7・8年度) 独立行政法人日本芸術文化振興会 25億円

【補助金事業】

令和7・8年度 「クリエイター事業者支援事業費補助金（文化芸術活動基盤強化基金造成費）事業」の運營業務を令和7年7月に受託致しました。

・「長期にわたる国内映像制作を行う事業」（プロダクション・ポストプロダクション支援）

グローバル市場を目指した映像、ゲーム製作には制作会社によるIPマネジメントや収益確保が重要であり、本助成金は、制作会社が資金調達やIP活用等に主導・参画し、海外市場に訴求する高品質なコンテンツ（映像、ゲーム等）を制作する長期的な取組を支援することで、コンテンツの国際競争力や収益基盤の強化を促進することを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

交付決定日から令和8年2月末までの活動に関する中間報告が、令和8年3月末までに全件提出されました。

・「長期にわたる国内映像企画開発を行う事業」（プリプロダクション支援）

グローバル市場におけるコンテンツ投資が拡大しているところ、本助成金は、海外需要獲得を目指す事業者が海外展開を念頭においた高品質なコンテンツ（映像、ゲーム等）の本制作に向け、多様な資金調達やパートナー獲得、クオリティの高い企画・脚本等の開発、契約交渉・資金調達における権利処理を行う長期的な取組を支援することで、コンテンツの国際競争力や収益基盤の強化を促進することを目的としており、その事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

交付決定日から令和8年2月末までの活動に関する中間報告が、令和8年3月末までに全件提出されました。

- ⑧ 令和7年度国際文化交流・協力推進事業 T I C A D 9 関連イベントに係る調査及び企画運営実施業務 文化庁
- 文化庁から当該事業を受託し、上期はTICAD9でのアフリカのマンガ家のパネル展示とシンポジウムを実施しました。下期は、実際にアフリカ5か国（南アフリカ・ナイジェリア・モロッコ・エジプト・ケニア）でのマンガ市場調査を実施し、市場の特徴や価格帯、言語、販売チャネル、海賊版状況といった日本の出版社がアフリカに進出するための基礎情報を取得しました。調査結果の報告セミナーも行い、セミナー内容はアーカイブ動画として報告書と合わせて公開しています。

（3）自主事業

① VIP0 アカデミー

2015年5月の開講より、今年度で11年目を迎えました。

常にアンケートやヒアリングを実施し、参加者ニーズに合わせて、講座プログラムの見直しと改善を継続しています。

今年度は2つのコースでオンライン開催を減らし、会場開催を増やしました。そして、一部の講座ではレベル別の講義を行うなど、学習効果の更なる向上とネットワーキングの構築促進に努めています。

また「業界研究ベーシックコース」では、取り上げるコンテンツのジャンルやテーマの見直しを行うことで、参加者の学びに役立つ事例を紹介できるように取り組んでいます。

今年度は8コースを実施して合計293名が参加されました。トピックとしては、冬期（1-3月）の「業界研究ベーシックコース」（全7回）の一括申込みが大きく増え（昨年度15名⇒54名）、多くの新規の方に参加いただきました。

I. 実績

（1）春期（5月～8月）

「ニュービジネス・デベロップメントコース～新規事業のはじめ方～」参加者6名

「リーガル・エッセンシャルコース（基礎編）」参加者9名

「リーガル・エッセンシャルコース（実践編）」参加者6名

「コーポレートリーダーコース」参加者8名

「プロジェクトリーダーコース」参加者13名

(2) 秋期（9月～12月）

「コーポレートリーダーコース」参加者 7 名

「プロジェクトリーダーコース」参加者 10 名

(3) 冬期（1月～3月）

「業界研究ベーシックコース」（全 7 回）

1 回あたりの参加者：平均 80 名

・一括申込： 54 名 (27 社)

・単発申込： 180 名

II. アンケート調査の実施

来年度以降のコース検討に伴い、VPO アカデミー卒業生や受講企業の人事・研修担当者（計約 750 名）に対してアンケートを実施し、コースの満足度やニーズなど広くご意見を伺いました。

アンケートでの意見をもとに、更なる改善を加えてより有意義なプログラム運営を目指します。

III. 2026 年度案作成と春期募集

・春期：2/9 より参加者募集中

「ニュービジネス・デベロップメントコース～新規事業のはじめ方～」(4 月)

「プロジェクトリーダーコース」(5 月～8 月)

② セミナー・ワークショップ事業

I. 「福井健策弁護士法律セミナー 漫画・アニメの著作権・法務トラブル対処法講座」

(5 月 21 日)

講師：福井健策氏 弁護士

受講者：50 名

II. 「アクターズワークショップ」

(6 月 3 日、10 日)

講師：小林啓一氏 映画監督

受講者：15 名

III. 「声優とその志望者のための〈シナリオ読み方講座〉」

(9月4日、5日)

講師：小林雄次氏 脚本家・小説家

受講者：声優 8名

IV. 「映画プロデューサー養成講座 基礎編 2025」

(11月27日、28日)

講師：安藤紘平氏 早稲田大学名誉教授

ゲスト：李相日氏 映画監督

受講者：26名

V. 「Series Mania (シリーズ・マニア)」紹介セミナー」＜オンライン＞

(12月9日)

登壇者：

Laurence HERSZBERG (ローレンス・ハースバーグ) 氏

Series Mania 総局長

Francesco CAPURRO (フランチェスコ・カプロ) 氏

Series Mania Forum ディレクター

Pierre ZIEMNIAK (ピエール・ジエムニアック) 氏

Series Mania Institute プログラムディレクター

Klaus ZIMMERMANN (クラウス・ジーママン) 氏

ダイナミック・テレビジョン 共同創業者

参加者：118名

VI. 「福井健策弁護士法律セミナー 音楽著作権の基礎と2025年の最新動向」

(12月17日)

講師：福井健策氏 弁護士

受講者：50名

VII. AFA「東南アジアにおけるジャパニーズ・ポップカルチャープロジェクトの事例紹介」セミナー

(12月18日)

登壇者：Shawn Chin (ショーン・チン) 氏 SOZO PTE LTD 創業者

参加者：64名

VIII. プロデューサーズ・カフェ 2026

～ “これからのテレビドラマ” ってどうなるの？～

(2026年2月24日)

登壇者：倉崎憲氏（NHK）、鈴間広枝氏（日本テレビ）、貴島彩理氏（テレビ朝日）、飯田和孝氏（TBS テレビ）、本間かなみ氏（テレ東）、宋ハナ氏（CX）

司会者：林みなほ氏（フリーアナウンサー）

主催：一般社団法人 日本映画テレビプロデューサー協会

協力：VIP0

参加者：50 名

IX. 「オリジナルアニメの企画講座 2026」

（2026 年 2 月 20 日、27 日）

講師：小林雄次氏 脚本家・小説家

受講者：11 名

③ AFI Conservatory 日本人留学生推薦事業

将来の映像産業を担うプロフェッショナルの発掘と育成を目指すと共に、日本の映画企画や若手クリエイターが世界に出ていく仕組みを構築する事を目的とし、AFI (American Film Institute) Conservatory へ留学を希望する日本人の推薦活動を運営しております。AFI Conservatory への入学が正式に決定した場合、“T.Y. 奨学金制度”が AFI Conservatory の判断により給付される可能性があります。

また、将来的には留学生、卒業生等の講演やワークショップを日本で実施するなど、AFI へ留学を希望する日本人の数および質の向上を目指しております。

- ・VIP0 内サイトにおいて募集告知及び会員宛に告知メール配信（7 月）。
- ・映像・演劇関連 2 サイトに告知投稿（7 月）。
- ・締め切りは 9 月 24 日。本年度は応募が 2 件あったが、今年度は推薦者なしとなりました。

④ Japan Book Bank 事業（略称：JBB）

海外向けオンラインカタログとして今年度より月額 3,000 円で有料化を行い、現在は 55 社の出版社・エージェントが有料会員となっています。また、（一社）授業目的公衆送信補償金等管理協会による助成金「授業目的公衆送信補償金制度 共通目的事業・助成事業」にも採択されたため、下期にはフランクフルト・ブックフェアや TOKYO RIGHTS MEETING、ロンドンブックフェアといった主要ブックフェアにも出展し、JBB の海外向けプロモーションを積極的に実施しました。今期を通じて、122 件の権利の問い合わせがあり、ID 登録者も 193 人増え、合計で 1,453 人にまで成長しています。

⑤ VIPO Film Lab 事業

グローバルな視野を持ち国内外で活躍できるプロデューサー、監督、脚本家など業界プロフェッショナルを育成する場として、実践トレーニング、ワークショップ、オンライン講座など、目的別に様々な人材トレーニング等を提供する事業です。（一部 Netflix のスポンサーにより実施）

<https://filmlab.vipo.or.jp/>

I. 国際プロデューサーコース

【開催時期】2025 年 8 月～12 月

【参加者】21 名

【内容】国際的に活躍できる若手プロデューサー育成のため、映画祭や映画マーケット、セールスエージェントや企画マーケットの役割など、国際共同製作等に必要な知識を学べるコース。

Netflix の協賛により実施。

- ◆第1回：「映画祭とは、映画祭の活用方法」
- ◆第2回：「海外の企画マーケットについて」
- ◆第3回：「海外 PR の役割」
- ◆第4回：「国際共同製作におけるリーガルリテラシー」
- ◆第5回：「国際共同製作概略」
- ◆第6回：「セールスエージェントの役割」
- ◆第7回：「国際共同製作の多様性」
- ◆第8回：「脚本開発における戦略とツール」
- ◆第9回：「海外向け企画ピッチングについて」
- ◆第10回：「アジアの国際共同製作支援について」

II. 映画の企画脚本講座

【開催時期】10 月 6 日, 7 日（2 日間）

【講師】加藤 正人氏（脚本家）

【参加者】映画プロデューサー、監督、シナリオライターなど 12 名

【内容】オリジナル映画企画案をブラッシュアップして、いかに良い映画の脚本にしていくかということに主眼を置いた講座を実施しました。

III. 俳優のためのセルフ・テープオーディション対策講座 2025

【開催時期】10 月 19 日, 25 日, 26 日（3 日間）

【参加者】俳優 9 名

【内容】実力があるのに手法・アプローチの仕方がわからない日本の俳優たちが隠れた才能を開花させるためのインターナショナルなワークショップを実施しました。

IV. 監督コース

【開催時期】2026年3月2日～6日（5日間）

1) 演出ワークショップ 【参加者】4名

2) 演出公開講座 【参加者】38名

【内容】フランス国立映画学校(FEMIS)をはじめ世界中で教鞭をとる講師を迎え、世界に通用する映画表現や専門知識をワークショップ形式でレクチャー。Netflixの協賛により実施。

V. 映画の企画開発講座

【開催時期】2026年3月12日、13日、26日

【講師】池端 俊策氏（脚本家）

【モデレーター】篠原 圭氏（NHK エンタープライズ）

【参加者】8名

【内容】映画の企画を作成することに主眼を置いた講座をリアル開催。8名の受講者が自分の企画をどのような作品にしたいかを提案し、講師からの講評・アドバイスでブラッシュアップします。

VI. NY 脚本ワークショップ

Netflixの協賛により実施。

1) ワークショップ

【開催時期】2025年12月～2026年3月（全8セッション。対面およびオンラインで開催）

【講師】Christina Lazaridi 氏（脚本家）、Molloy Asher 氏（映画プロデューサー）、Shrihari Sathe 氏（映画プロデューサー）

【アドバイザー】福永 壮志氏（映画監督）

【参加者】3名（金子 由里奈氏、中西 舞氏、畠山 佳奈氏）

【内容】ニューヨークより講師を招き、短期実践脚本ワークショップおよび脚本公開講座を開催。短期実践脚本ワークショップはブラッシュアップ期間を設けるため、前半・後半の2期に分けて実施。

2) 公開脚本講座

【開催時期】2025年12月8日

【講師】Christina Lazaridi 氏

【参加者】33名

【内容】上記ワークショップの一環として実施する脚本講座を公開講座とし、広く監督等が参加できる講座として実施。

VII. リスペクト・トレーニング

【開催時期】 2025 年 4 月～12 月（全 16 回）

【講師】 田中 秀憲氏（ピースマインド株式会社）

【参加者】 コンテンツ業界に従事されていて、「リスペクト・トレーニング」を受講したことがない方（各回定員 40 名）

【内容】 日本のエンターテインメント業界の労働環境改善に向けた取り組みとして Netflix が実施している「リスペクト・トレーニング」を広く多くの方に認知していただくために、映像作品の制作に直接関わらない方々も参加できるかたちで VIP0 と Netflix 共催にて実施。

VIII. ダビングセミナー～ローカライズ戦略と吹替品質向上

【開催時期】 2025 年 6 月 9 日（実写編）・10 日（アニメ編）

【講師】 紀 周子氏、ジョン・デミータ氏、ロベルト・グラナドス氏

【参加者】 実写編：42 名／アニメ編：57 名

【内容】 VIP0 と Netflix の共催により、実写・アニメ両面からコンテンツのローカライズ戦略を学ぶオンライン講座を実施。Netflix 南北米吹替責任者を講師に迎え、主要市場における視聴者の嗜好や、コンテンツの品質向上に不可欠な吹替の重要性を共有。日本コンテンツのグローバル展開を加速させるための具体的な手法と知見を、受講者へ提供した。

⑥ カンヌ 監督週間 in Tokyo 2025

3 回目となる「カンヌ監督週間 in Tokyo」を本年度も開催。2025 年 12 月 12 日(金)～25 日(木)の 14 日間、ヒューマントラストシネマ渋谷にてカンヌ国際映画祭「監督週間 2025」に選出された 11 作品に加え、2014 年選出の『かぐや姫の物語』を上映しました。アーティスティック・ディレクターのジュリアン・レジ氏が来日し、邦画 3 作品の監督・キャストによるトークイベントや『Yes／イエス』ナダヴ・ラピド監督によるオンライントークを実施し、過去最高の動員を記録する大盛況となりました。

「カンヌ監督週間 in Tokyo 2025」上映作品（全 12 作品）

『The President's Cake／ザ・プレジデント・ケーキ』

監督：ハサン・ハディ

『見はらし世代』

監督：団塚唯我

『Her Will Be Done／ハー・ウィル・ビー・ダン』

監督：ジュリア・コワルスキー

『国宝』

監督：李相日

『Mirrors No.3／ミラーズ No.3』

監督：クリスチャン・ペッツォルト
『Peak Everything／ピーク・エヴリシング』
監督：アンヌ・エモン
『The Girl in the Snow／ガール・イン・ザ・スノウ』
監督：ルイーズ・エモン
『The Party's Over!／パーティーズ・オーヴァー!』
監督：アントニー・コルディエ
『Wild Foxes／ワイルド・フォクシーズ』
監督：ヴァレリー・カルノワ
『Yes／イエス』
監督：ナダヴ・ラピド ※来日予定
『Sorry, Baby／ソーリー・ベイビー』
監督：エヴァ・ヴィクター
『かぐや姫の物語』（特別上映）
監督：高畑勲

⑦ VIPO Film Award

提携先の企画マーケットに選出された企画を審査し、賞金賞である VIPO アワードを授与する自主事業です。今年度の提携先企画マーケットは、7 月上旬開催の「NAFF It Program／プチョン国際ファンタスティック映画祭」、9 月下旬開催の「Asian Project Market (APM)／釜山国際映画祭」、そして、2 月上旬開催の「CineMart／ロッテルダム国際映画祭(IFFR)」で、外部審査員と共に授賞者を決定しました。今年度はプチョンにて Carlo Francisco MANATAD 監督、Chad Angelic CABIGON、Yulia Evina BHARA プロデュースの「Brilliant Melody」(フィリピン・フランス) へ、釜山にて LAU Kok Rui 監督、Soi CHEANG、Stefano CENTINI、WONG Kew Soon プロデュースの「Wake Me up When the Mourning Ends」(マレーシア・香港・中国・イタリア・台湾) へ、そしてロッテルダムにて Leonardo Martinelli 監督、Felipe M. Bragança、Marina Meliande プロデュースの「Neon Phantom」(ブラジル) へ VIPO アワードを授与しました。

⑧ 海外マッチング：ポーランド、コロンビア(万博関係)

I. コロンビア×日本プロデューサーマッチング

大阪万博関連事業の一環として南米コロンビア政府の投資促進機関である PROCOLOMBIA からの依頼で、来日したコロンビア映画関係者と日本プロデューサーとのマッチングイベントを企画実施。

日時：2025 年 9 月 3 日

会場：VIPO 事務所

II. ポーランド×日本プロデューサーマッチング

大阪万博関連事業の一環としてポーランド政府の映画機関である Polish Film Institute からの依頼で、来日したポーランド映画プロデューサーと日本プロデューサーとのマッチングイベントを企画実施。

日時：2025 年 9 月 29 日

会場：VIP0 事務所

⑨ 交流促進事業

I. 海外の同様の機関等と交流の推進

1) 日韓 Producers Exchange@釜山・東京

韓国映画振興委員会（KOFIC）と共に日韓両国間の国際共同製作や国際協業をさらに振興する目的で、両国の映画祭開催時にイベントを実施。国際共同製作や協業を目指す制作者のための両国の支援についての理解促進、およびマッチングを目指して開催。韓国映画振興委員会（KOFIC）と VIP0 の共催。

・釜山国際映画祭

【開催時期】2025 年 9 月 17 日～26 日

【参加者】公募した 5 名の若手プロデューサー

【内容】日本から 5 名の若手プロデューサーを派遣し、両国の助成金制度についてのセミナー、1 対 1 のミーティング、プロデューサー同士のネットワーキング交流会を実施。

・TIFFCOM

【開催時期】2025 年 10 月 29 日～31 日

【参加者】公募した 5 名の若手プロデューサー

【内容】韓国から 5 名の若手プロデューサーを招聘し、共同ブースの出展、両国の助成金制度についてのセミナー、1 対 1 のミーティング、プロデューサー同士のネットワーキング交流会を実施。

また、韓国選出プロデューサー 3 名に対し、国内スタジオの視察機会を提供。

2) 韓国電波振興会との交流

韓国の電波振興協会（RAPA）が主催するコンテンツ振興事業の一環で、

韓国の様々な YouTube・コンテンツクリエイターチームを支援している [K-Creator x Global Brands Partnership] の皆様が 9 月 17 日に来訪されました。VIPO の活動を紹介すると共に RAPA の活動、韓国クリエイターの方の紹介、質疑応答等を行い交流を深めました。

(4) 組織運営

① 会員の状況

I. 新規入会

個人会員 0 名 法人会員 0 社 賛助会員 0 社

II. 退会

個人会員 0 名 法人会員 1 社 賛助会員 0 社

III. 現在の状況

- ・会員数：個人会員 1 名 法人会員 97 社 賛助会員 4 社
- ・会費及び入会金 入金額 46,010 千円（昨年比 420 千円減）

② 通常総会、理事会、幹事理事会

本年の通常総会、理事会、幹事理事会はいずれも参加者の利便性を考慮に入れ、実参加に加えオンラインでのご参加も可能とする方法にて開催致しました。

I. 通常総会

- ・本年度は令和 7 年 6 月 26 日に通常総会を開催し、令和 6 年度の事業報告・会計報告、令和 7 年度の事業計画・予算・役員の選任等について決議をいただきました。

II. 理事会

- ・令和 7 年 6 月 11 日に開催し、通常総会の審議事項について決議いただきました。
- ・令和 7 年 12 月 3 日に開催し、中間事業報告を行うと共に、コンプライアンス体制及び状況について報告いたしました。

III. 幹事理事会

- ・令和 7 年 4 月 2 日に開催し、令和 6 年度の事業報告(案)及び決算見通しの報告を行いました。また、令和 7 年度事業計画(案)及び収支予算(案)の報告を行いました。
- ・令和 7 年 6 月 11 日に開催し、通常総会の審議事項及び理事会の審議事項について報告を行いました。
- ・令和 7 年 12 月 3 日に開催し、中間事業報告を行うと共に、コンプライアンス体制及び状況について報告いたしました。

IV. 会員交流会

本年度は昨年度に引き続き 6 月 26 日の通常総会後に開催致しました。
当機構会員・役員、関係省庁（内閣府知的財産戦略推進事務局、総務省、外務省、文化庁、経済産業省）、関係団体・企業の皆様をお招きして交流会を開催し多数のご参加を頂きました。本会では同日に行われた通常総会のご報告とともに、設立 20 周年の節目を迎えることができたことへの感謝を述べ、ご出席の皆様の交流を深めていただきました。

（５）広報活動

① 「VIP0 年間活動報告書 2024」の発行

「VIP0 年間活動報告書 2024」（32 ページ）を 6 月 26 日付にて発行し、会員及び役員に配布しました。2024 年 12 月で VIP0 設立 20 周年となることから、巻頭の見開き 2 ページにて 20 年を総括した「VIP020 年の歩み」を掲載しました。歴代の主要な事業を時系列で記すとともに、VIP0 事業の成果の代表例として、2024 年度に海外の国際映画祭において監督作品が受賞または選出された 2 名の VIP0 事業出身クリエイターを紹介しました。

事業・広報活動等において“対面”で説明する際に活用しております。

② 「国際文芸フォーラム 2026」のプレス対応

2026 年 2 月 12 日に行われた「国際文芸フォーラム 2026」の事前広報活動として、メディアの向けのプレスリリース配信と個別の取材誘致を実施しました。当日はプレス受付対応と、事後のメディアフォローアップを行いました。誘致の結果、メディア 30 名が参加しました。

③ 「ndjc2025 合評上映会」のプレス対応

2026 年 3 月 24 日に実施された「ndjc2025 合評上映会」の事前広報活動として、メディアの向けのプレスリリース配信と個別の誘致連絡を実施しました。当日はプレス受付対応と、事後のメディアフォローアップを行いました。

④ ホームページの運営

2025 年 12 月 22 日にホームページをリニューアル、以下の点について刷新しました。

- ・トップページの情報を整理し、視認性の高いレイアウトに改修。
- ・お知らせを「募集情報」「実施報告」「結果・成果報告」「お知らせ・その他」の 4 カテゴリーに分類し、カテゴリごとの絞り込み表示を可能に。
- ・サイト全体にワイド表示採用と、スマートフォン対応を実装。

また、随時活動報告及びコンテンツ業界の情報を掲載いたしました。
2016年9月より開始したコンテンツ業界に関わる人やイベントをテーマにしたインタビュー企画では、以下を取り上げました。

■2025年8月

NHK 戦後80年ドラマ『八月の声を運ぶ男』放送記念！「VIP0 Film Lab／映画の企画開発講座 参加企画が映像化されるまで—制作秘話—」

■2025年9月

韓国コンテンツ振興院（KOCCA）東京・大阪ビジネスセンター長インタビュー＜第一弾東京ビジネスセンター長編＞韓国コンテンツの最新動向や日韓のコンテンツ産業が直面する課題と将来の展望

■2025年12月

内閣府に聞く——コンテンツ産業を国家の柱へ。知的財産戦略と「協調と競争の好循環」が導くコンテンツ産業の未来

■2026年1月

韓国コンテンツ振興院（KOCCA）東京・大阪ビジネスセンター長インタビュー＜第二弾 大阪ビジネスセンター長編＞大阪発、日韓連携で目指すグローバル市場へのチャレンジと KOCCA の「コンテンツ金融支援制度」を紐解く

■2026年2月

「目標は小さく、夢は大きく」38年間、毎年“最高の運”を更新し続ける株式会社 IG ポート 代表取締役社長 石川光久氏の飽くなき挑戦とは

■2026年3月

世界へ挑む映画人たち～撮影監督・戸田義久氏に聞く AFI 留学で得たもの

⑤ VIP0 会員とコンテンツ事業者へのメール配信

VIP0 の活動報告を毎月定例で発信する「VIP0 プレス」の発行と、会員各社の情報や事業活動などを不定期に発信する「VIP0 ニュース」を継続的に発信しました。

メールニュースの配信先数（コンテンツ事業者）は、約12,350件（2026年3月13日現在）です。

⑥ 事業活動の記事露出

主にプレスリリース配信などを通しプレスに対して事業活動の最新情報を随時発信することで、業界誌・紙を中心にパブリシティを獲得いたしました。今年度は、142 件のプレスリリースを配信、約 4,000 媒体に転載されました。

以上